

【一宮町社会福祉協議会長賞】

うつのみや ちずこ
宇都宮 千瑞子

49歳で旅立ったお父さん。

あなたが逝ってからもう、44年になりますね。

お酒が大好きで、飲み過ぎてはお母さんや私たち子供に嫌われていたお父さん。

あなたが逝った時、なんだかほっとした気持ちになっていた私は、

あなたが逝ってから2年ほどして結婚式をあげました。

その時、父親代わりを立てなくてはいけなくなり、

これまで味わったことが無いほど、大きな衝撃が襲ってきました。

父親として、末っ子の私の結婚式に出席出来なかったあなたを思い、
恋しさが込み上げてきたのです。

お父さん、天国のお父さん。

あなたが年老いて行く姿を見られなかった寂しさは、私が年を重ねるごとに、
恋しさとなって増してゆきました。

お父さん、あなたは雨の日も大風が吹く日も、決して仕事を休みませんでしたね。

あんなにお酒を飲んでいたのは、疲れやあなただけが持っていた夢を

叶えられない悔しさから、飲んでいたのではないかと今は、そう思うのです。

お父さん、もっと生きていて欲しかった。

お父さん、私の子供たちをその手で、抱いて欲しかった。

もう叶わない夢ですね。

お父さん、実家に帰った時、お母さんとアルバムを捲ることがあるんですよ。

今更ながら、お父さんはとてもハンサムですね。

私はお父さんに似ていると、お母さんは言いますが…、

どうでしょう、お父さん。

(愛媛県／64歳／女性／主婦)

入賞者の作品への大切な思い…

普段心の中で思っていることや、感じていることを吐き出すように、
素直な気持ちで書きました。